



安全操業のために

コスモ石油グループでは、安全操業、安定供給を最重要課題の一つと位置づけ、あらゆる事業活動において、安全を確保することにより、社会との共生に努めます。

安全への取り組み

●安全に対する考え方

連結中期安全計画

コスモ石油グループでは、2005年度より生産、物流、販売の各段階に加えエンジニアリング部門などを対象として、連結中期安全計画を策定し、取り組みを行っています。

2008年度から、新たに「第2次連結中期安全計画」を進めています。「事故ゼロをめざした活動を積極的に推し進め、お客様、社会から信頼され、社員が誇れる安全・安心なコスモ石油グループを創り上げる」ことをビジョンに、事故削減の目標を定量的に定め、評価・改善していくことで、安全レベルの向上を図っています。

安全の最優先について

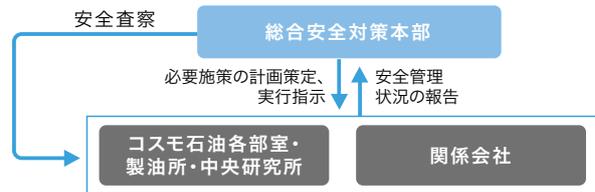
2009年4月1日に「安全の最優先」について社長から全社員に対しメッセージを発信しました。これは「事故・災害・トラブルを絶対に起こさない」という意識を高め、一人ひとりが自覚し全員参加のもと、安全を最優先して業務に取り組むことを徹底するもので、2009年度を迎えるにあたり、安全に対する考え方を明確にしました。

安全管理組織

コスモ石油グループは、生産、物流、販売、エンジニアリング等の各段階での安全を確保するため、全社的な安全管理組織として、総合安全対策本部を設置しています。安全環境部担当役員が本部長となり、社内各部門のメンバーで構成しています。

この総合安全対策本部は、本部会議を毎年定期的開催し、安全管理に関する重要事項の調整、審議および各部門、事業所における安全管理の実施状況の把握を行っています。また、毎年コスモ石油グループの事業所や事業所を管理する本社部門に対し、安全査察を行っています。

▶ 安全管理体制図



▶ 第2次連結中期安全計画の2008年度の取り組み状況

※達成度：○達成 △一部達成 ×進捗なし

| 部門/対象 | | 主な目標 | 2008年の主な実施項目/実績 | 目標の達成度 |
|----------|--------------------|--|--|--------|
| 製造部門 | 4製油所およびコスモ松山石油 | ・不安全不具合の件数を2010年にベース年比90%削減(11件以下) | ・不安全不具合発生件数：142件 | - |
| | コスモ石油ルブリカンツ(潤滑油製造) | ・労働災害ゼロ ・事故・トラブルの前年比30%削減 | ・労働災害：2件 ・2009年以降の評価の基準となる件数を把握 | △ |
| | コスモ石油ガス(LPG貯蔵・配送) | ・事故・トラブルゼロの継続 | ・事故・トラブル：0件 | ○ |
| 物流部門 | コスモ陸運(陸上輸送) | ・混油事故根絶(0件) ・ヒヤリハット提出(目標：1万件) | ・混油事故：4件 ・ヒヤリハット提出：約2万件 | △ |
| | コスモ海運(海上輸送) | ・海上漏えい、座礁事故ゼロの継続 ・機器故障の基準年(2008年)比50%削減 | ・海上漏えい、座礁事故：0件 ・2009年以降の評価の基準となる件数を把握 | ○ |
| | 油槽所 | ・労働災害ゼロの継続 ・火災/漏えい事故の年平均2件未満 | ・労働災害：0件 ・火災/漏えい事故：0件 | ○ |
| 販売・その他部門 | 販売サポート部(SS) | ・SS工事における労働災害ゼロの継続 | ・労働災害：0件 | ○ |
| | 事業開発部(コージェネレーション等) | ・年間平均事故数1件以下 | ・事故：0件 | ○ |
| | 中央研究所 | ・労働災害ゼロの継続 ・事故・トラブルの削減 | ・労働災害：0件 ・2009年以降の評価の基準となる件数を把握 | ○ |
| | コスモエンジニアリング | ・ゼロ災害の実現(労働災害の確実な削減) | ・2009年以降の評価の基準となる件数を把握(労働災害：14件) | - |

製油所における取り組み

● チェンジ21活動

製油所部門では、「事故ゼロを達成しそれを維持する」ことをゴールビジョンに、「不安全不具合の発生を2010年に、ベース年比90%以上削減する」ことを定量目標とした「チェンジ21活動」に取り組んでいます。

● 不安全不具合件数

2008年の不安全不具合の件数は142件となり、ベース年*1に比べ増加する結果となりましたが、石油コンビナート等災害防止法に定める異常現象*2の件数は減少しました。

▶ 不安全不具合発生件数

| | 2008年 | ベース年 |
|--------------------------|-------|------|
| 不安全不具合件数 | 142件 | 110件 |
| 内、石油コンビナート等災害防止法に定める異常現象 | 14件 | 21件 |

*1 ベース年：2006年9月～2007年8月

*2 異常現象：火災、爆発、漏えい、破損、暴走反応等をさす

● 今後の取り組み

保全レベルの充実

従来あまり注力してこなかった小径配管、薬品系配管、若干の油分を含む排水配管などへの対策を充実させます。

不安全行動の削減

- ・安全の原点に立ち返って基本に忠実に行動するなど「安全再強化宣言」の周知徹底事項を着実に実行します。
- ・「一人ひとりカケガエノナイひと」という人間尊重の理念に基づいたゼロ災運動を積極的に推進します。一例として、指差し呼称の徹底を推進します。一人ひとりがいったん立ち止まり、安全を再確認することで不安全行動を削減します。

安全査察

2008年度は4製油所を含む12事業所・部門を対象に安全査察を実施しました。特に製油所に対する査察では、本社メンバーに他製油所のメンバーを加えることで実務遂行上、より実効的な改善、指導を行っています。

物流における取り組み

● 無事故表彰

陸上ローリー輸送に対する安全意識の高揚と事故災害の撲滅を図ることを目的に、毎年陸上輸送会社ならびにローリー乗務員の無事故実績を表彰しています。2008年度の無事故実績については2009年5月20日に表彰式を開催しました。7年間無事故継続会社5社をはじめとする計9社、20年間無事故継続乗務員8名を含む計16名が表彰され、表彰状と副賞が贈呈されました。

● 安全マネジメントシステム

陸上ローリー輸送契約運送会社の自主保安体制の確立をめざし、2008年度よりコスモ陸運(株)がサポート役となって「安全マネジメントシステム」の構築を進めています。2008年度は方針や目標、計画の文書化、実施・運用にあたっての手順書やマニュアルの作成を中心に取り組みました。2009年度はマネジメントシステムの実際の運用と定着に取り組んでいきます。

海底原油配管の浮上

2008年6月19日千葉製油所において、海底に埋設している原油揚げ配管の浮上事故が発生し、7月31日海上浮上した配管の沈降作業中、埋設配管に亀裂が生じ油分含有水が海上へ漏えいしました。社内に安全環境部担当役員を本部長とする総合災害対策本部を設置し、漏えいした油の回収を行うとともに浮上配管の部分取替工事等の対策を講じ、2009年2月に復旧しました。

配管の浮上原因は、気密検査実施中の不具合によるものと推定しており、この事故を教訓として気密検査の管理方法や工事実行体制等に関する再発防止策を講じています。



海底原油配管の復旧工事

WEB 詳細情報 ● 安全成績(操業事故、労働災害、製油所労働災害発生件数推移、製油所無災害労働時間)

<http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/safe/index.html>

WEB 詳細情報 ● 安全査察実施事業所/会社

<http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/safe/change.html>